

「占い」で終わらせない：IPランドスケープを真に経営に活かすための要諦

「占い」化・形骸化するIPLの失敗パターン



「役に立たない」という
評価の広がり

Google検索で「IPランドスケープ
役に立たない」が候補に出るほど、実
務現場での不満が顕在化しています。

価値の翻訳における
「3つの断絶」



「要求→設計」「情報→洞察」「洞察→行動」

各段階で、意思決定に繋がる翻
訳に失敗しています。



「経営に資する」分析への転換

特許庁が定める
IPLの定義



経営・事業情報に知財情報を組
み込み、経営層と将来展望を共有
して戦略立案に寄与すること。

再現性と透明性の
徹底した担保



母集団の検索式、前提条件を明示
し、定量データと分析者の主観（読
みみ）の境界を明確にします。

生成AI活用における
「ハルシネーション」対策



AIによる根拠の希薄化を防ぐため、
出典の明示と人間によるファクトチ
ェックを必須フローに組み込みます。

データの可視化自体が
目的化する罠



ストーリーのない特許マップの羅
列や、統計的裏付けのない将来予
予測は「占い」と見なされます。

信頼されるIPLレポートに必要な必須記載事項のチェックリスト

カテゴリ	必須記載項目
✓ 分析の前提	✓ 母集団定義、検索式、データベース名、データ取得日
✓ 処理の透明性	✓ 出願人名寄せ、ノイズ処理の方針、時系列の切り出し理由
✓ 解釈の根拠	✓ データの事実と分析者の判断の境界、分析の限界事項